

<p>10/6(木) 建築一集積の方法</p> <p>飯田善彦 (株)飯田善彦建築工房 代表取締役</p>	<p>建築はある日忽然と現れます。それは紛れもなく具象であり、つまり具体的なモノの集積です。しかしながら、集積したモノのひとつひとつは、実に膨大な背景と共にあります。即ち、建築は見えている具象だけではなく、それらを生み出してきたプロセスを含めた総体としてある、と考えています。そのようなことを自分が関わってきた作品を通して話したいと思います。</p> <p>1950 年埼玉県浦和市生まれ。1973 年横浜国立大学工学部建築学科卒業。(株)計画設計工房(谷口吉生、高宮真介)、(株)建築計画(共同:元倉真琴)を経て、現職。1998 年川上村林業総合センター「森の交流館」で日本建築学会作品賞、2004 年「名古屋大学野依センター」で中部建築賞、他受賞多数。現在、横浜国立大学、日本大学、慶應義塾大学で非常勤講師を務める。</p>
<p>10/20(木)</p> <p>わたしたちの景色 Our Shared Landscape</p> <p>樋口忠彦 京都大学大学院教授 (都市環境工学専攻)</p>	<p>「気色」、「けしき」、「景色」、「風景」、そして「景観」という、我が国の「景色」の歴史を振り返りながら、これからの「わたしたちの景色」について考える。</p> <p>1944 年埼玉県生まれ。東大工学部土木工学科卒業、同大学院博士課程修了。日本都市計画学会石川賞、土木学会著作賞、建築学会賞(業績)、サントリー学芸賞などを受賞。著書に、『景観の構造』(技報堂出版)、『日本の景観』(筑摩書房)、『郊外の風景』(教育出版)、『都市のデザイン』(共著、学芸出版社)、『日本人はどのように国土をつくったか』(共著、学芸出版社)など。</p>
<p>10/27(木)</p> <p>まちかどに紙芝居と寸劇を</p> <p>小暮宣雄 京都橘大学教授 (地域芸術環境研究)</p>	<p>大学が立地している京都市山科区という一見何もない町。その町の奥に脈打ちひそむ多様な想いや記憶を、地域に則して新しく創る紙芝居や寸劇によって掘り出す試みが、今回ご報告する「まちかど芸術」です。</p> <p>1955 年大阪市生まれ。東京大学法学部卒業後自治省入省。23 年間の公務員生活のうち、本学に文化政策学部が創設されるのに伴ってアーツマネジメント担当の教員となる。自治省時代は、ふるさと創生、地域情報化担当のほか、地域産業おこし事業、商店街にぎわい創出事業、地域ステージづくり事業などを企画立案した。近著は『アーツマネジメントみち～社会に未知、まちにダンス』(晃洋書房、2003)など。</p>
<p>11/10(木)</p> <p>商業者とまちづくり - その関係を考える -</p> <p>田中道雄 まちづくりデザイン研究所 代表、 大阪学院大学流通科学部教授</p>	<p>まちづくりを進めようとするとき必ず関わってくる商業者。しかし、まちづくりに携わる人々は、この商業者とのつきあひ方を知らない人が多い。商業のまちづくりを成功させるための必要な論理とは、その構造は何かを考える。</p> <p>各地商業まちづくりビジョン作成に従事。1985 年長浜市、1992 年高梁市、神戸新鮮市場命名(1991)、神戸市三宮南地域復興検討委員会座長(1996)、同中心市街地活性化計画委員長(1998)京都市商業集積検討会議(1999)、同中心市街地活性化計画(1999)、同商業ビジョン委員会(2003)の各副委員長をはじめ、各地で商業まちづくりに関わる。主書『商店街経営の研究』中央経済社 1995 年。</p>
<p>12/1(木)</p> <p>地域の自然環境再生まちづくり</p> <p>工藤和美 明石工業高等専門学校 建築学科講師</p>	<p>まちづくりや地域計画への取り組みから気づいた新たな視点について、ドイツ、ブランデンブルグ州と兵庫県東播磨地域での試みを通してお話しします。</p> <p>1967 年岡山県生まれ、神戸大学大学院博士課程単位取得退学、明石工業高等専門学校建築学科助手、アーヘン工科大学(ドイツ)建築学部在外研究員を経て現職。新開地シンボルゲート及びシンボルモニュメントデザイン設計競技最優秀賞、SD Review 2001 入選、SDA 賞優秀賞、公共の色彩賞 - 環境色彩 10 選、JCD デザイン賞 2003 入選、真の日本のすまい設計提案競技経済産業大臣賞、グッド・ベインティング・カラー特別賞等受賞多数</p>
<p>12/9(金)</p> <p>メトロポリタン・ランドスケープ</p> <p>小林政彦 鳳コンサルタント(株) 環境デザイン 研究所副所長、ランドスケープアーキ テクト 京都嵯峨芸術大学 非常勤 講師(2005～)</p>	<p>都市が巨大化することによって失われてゆくものは何か?メトロポリスが生み出す問題をランドスケープデザインからどのように解くか。これらへの私の試みを具体的な作品を通して紹介したい。ここでは、機能の視覚化、生態学的様相、三次元共有空間への転換、の三つのキーワードから述べる。</p> <p>1952 年生まれ。76 年大阪府立大学農学部卒業、緑地計画工学専攻。建設会社を経て 90 年より当研究所所属。一級造園施工管理技師 1982 技術士(都市および地方計画) 1995 登録ランドスケープアーキテクト(RLA) 2004 1990・北海道ながめまコミュニティパーク設計競技・1 等 1994 ・さいたまひろば国際設計競技・最優秀賞 1997,98 ・都市景観大賞(ひろしま猿こつ川アートプロムナード) 1999 ・緑の都市賞/都市緑化基金賞(HAT 神戸灘の浜・脇の浜)</p>